

平成26年度 施策評価シート

作成日 平成 26 年 11 月 26 日

1 施策の概要

施策名 (節の名称)	No. 1	自然環境の保全と適正利用			
部章節No.	第1部 第1章 第1節	評価担当部	環境経済部	関連部局	建設部
総合計画書掲載頁	48 頁	記載責任者	橋本和明		
総合計画 体 系	まちづくりの目標【部】	自然と調和した快適なまちづくり			
	施策の分類【章】	自然環境の保全と適正利用			
施策の目的 (基本方針)	森林の育成や水辺環境の保全など、豊かな自然環境を守り育てる一方で、自然の生態系を損なうことのないよう適正な利用を促し、自然と共生したまちづくりにつとめます。また、河川整備を推進するとともに、生態系に配慮しながら河川、水路を利用した快適な水辺環境の保全と整備をはかります。				

2 施策を取り巻く環境

施策の現状	本町は、相模川や中津川の清流、丹沢山塊の山々など、豊かな自然環境に恵まれ、ハイキングをはじめ、河原でのバーベキューやキャンプ、釣りなどのレクリエーションが楽しめることから、今後とも、こうした自然環境の適切な保全とともに、自然とのふれあいを基調とした観光事業やレクリエーション活動を促進していく必要がある。
法令・制度 の変更	
施策の課題	河川マナーの向上など、自然環境保護意識の啓発・高揚を図るとともに、本町の特色である豊かな水とみどりを活かした快適な空間づくりが求められている。また、河川の空間特性に応じた環境づくりとして、県が策定を進めている「河川整備計画」に対応した、「中津川リバーリフレッシュ構想」の見直しが必要となっている。

3 施策の成果指標 (基本方針を達成するため本施策に求められる成果を定量的に表記します。)

住民満足度	指標（単位）	総合計画 策定時	中間値 （26年度）	目標値 28年度	達成度
	『自然環境の保全と適正利用』について 「満足」と感じる住民の割合	48.3 %	37.2 %	53.0 %	C

主 な 目標指標	指標（単位）	増減	総合計画 策定時	23年度	24年度	25年度	目標値 28年度	達成度
								—
								—
								—

4 施策の活動指標 (「3 施策の成果指標」の目的を達成するため本施策において町が行う活動内容等を定量的に表記します。)

主 な 活動指標	指標 (単位)	増減	総合計画 策定時	23年度	24年度	25年度	目標値 28年度	達成度
	河川美化広報活動の実施回数 (回/年)	増	11	11	11	11	11	A
	上下流域自治体間交流事業の実施回数 (回/年)	増	2	2	2	2	2	A
								—

5 総合計画の進捗状況調査に基づく基本施策の評価

基本施策		評価結果	基本施策		評価結果
No.	名称		No.	名称	
1	自然環境の保全	A			
2	自然とのふれあいの場の充実	B			
3	水辺空間づくり	A			

6 総合評価

成果指標評価	C	活動指標評価	A	進捗状況調査結果	A
--------	---	--------	---	----------	---

総合評価	B (自動判定)	→ 構成事務事業の見直しが必要な施策です。
	総合評価結果に対する分析（施策全体について、進捗状況、有効性・効率性の観点を踏まえて分析してください。）	
	山林や河川などの不法投棄巡回パトロールや美化広報活動、さらには、「中津川リバーフレッシュ構想」の見直しに着手し、自然環境の保全及び適正利用に向けて、事業を展開しているが、住民の声として、河川敷にニセアカシアや葎などが繁茂し、一部では樹林化した箇所も見受けられることから、河川環境の適切な管理という面で、住民満足度が低くなっていると推測するところである。	

7 今後の方向性

方向性	☒ 現状維持 ☐ 一部見直し ☐ 大幅な見直し ☐ 新たな取り組みや事業を追加 ☐ その他
改善案などの内容	今後も、自然環境の保全については、県の関係部局と連携しながら、現状を維持していくものとするが、河川敷については、引き続き、管理者である県（厚木土木事務所）へ適切な管理を要望していくものとする。

8 庁内行政評価委員会コメント

※主管部等では記入しないでください。

評価・方向性	河川への樹木等の繁茂については、町での取り組みだけでは解決できない問題であり、町としては所管部の方向性のとおり現状維持とする
--------	---

9 総合計画の進捗状況調査における取組の方向性の評価（事務事業の評価）

[illegible]